



- 2014-2015 R I 会長：ゲイリー・C. K. ホアン
- R I 第 2570 地区ガバナー：坂本 元彦
- 会長：加藤 国夫 幹事：滝沢 文夫
- 例会日：木曜日 12：30～13：30
- 例会場：丸広百貨店入間店 6 F パンケットホール
Tel. 04-2963-1111

- 会報委員長：石川 嘉彦 ■ 当番：馬路 宏樹
- 事務所：〒358-0023
入間市扇台 3-3-7 ハイソ斎竹 101 号
Tel. 04-2964-1700 Fax. 04-2965-5788
Email：iruma-rc@jupiter.plala.or.jp

第 31 号 2852 回例会 2015 年 2 月 12 日 (木)

<ビジター・ゲスト>

入間市教育長

村野 志朗 様

●●● 会長の時間

加藤国夫会長

本日は入間市議会中と言うことで村野教育長には時間的に制限があり、例会中の順序が変更となっておりますので、会員の皆様にはご理解頂きますようお願い申し上げます。この後 12 時 40 分から卓話をよろしく願いいたします。私から申し上げるまでもありませんが、村野教育長さんは、入間市の教育行政に多義にわたり、非常に熱心に取り組んでおられます。我々入間 RC も少しでもお役に立てる事があればと、考えておりますので宜しくお願いいたします。

さて、この 2 月のロータリーでは「世界理解月間」となっております。1905 年 2 月 23 日はポールハリス始め 4 人が、シカゴで初めて会合を開いた日で、この日はロータリーの「創立記念日」になっております。よって 2 月は「世界理解月間」と指定されています。この月間中、ロータリークラブは世界平和に不可欠なものとして、理解と善意を強調するクラブプログラムを行うよう要請されています。又、世界理解と平和の日と定められ、この日を国際理解と友情と平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければなりません。さらに 2 月 23 日に始まる 1 週間を「世界理解と平和週間」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議されています。

趣旨にかなう意味で、今日は教育と言う分野でプログラムを組ませていただいております。日本に置ける識字と言う事では、そう深刻な問題はないと感じておりますが、世界においては、まだまだ内戦、または宗教的な問題、貧困などで中々教育が受けられない国が沢山あるようです。なかでもパキスタンの識字率は、59.8% で 4 割以上の人が字を読めないそうで

す。学校教育が行き届いていないからです。親が字を読めないと、子どもが文字や数字に触れる機会は格段に減ります。大半の親は教育の重要性は認識していますが、貧困により中々学校に行かせることができず、地域の学校に行かせても、大半が長続きしないようです。学校へ行く時間があるならば、むしろ家で農業の手伝いをさせた方が良く考える人もいて、小学校の中退率は 5 割に達するそうです。但しパキスタンに於いては、たとえどんな家庭においても、ほぼ 100%、熱心に親から子に伝える事があります。満足に字が読めないまま、家の仕事の手伝いをしながら大きくなった若者は、思うように仕事を選ぶことはできません。「農業や単純労働」しか選択肢がない。いつまでたっても豊かになる事は出来ません。そしてイスラムの教えだけしか知らない貧しい若者たち中で、不満を溜めて行った者が行き着く先。それがイスラムの教えを先鋭化したイスラム原理主義の集団です。(文中池上彰氏の中東記事より)

● 幹事報告

滝沢文夫幹事

- ① IM の参加費は予算より支出します。
- ② ローターアクト年次大会は入間クラブは不参加になります。
- ③ 3/7R 財団セミナー及び補助金管理セミナーは会長エレクトと次年度 R 財団委員長出席予定。
- ④ 2/27 地域交流会、会長、幹事、エレクト出席予定
- ⑤ 3/8 入間市少年野球連盟総会 会長エレクト出席予定

● 委員長報告

プログラム委員会

宮崎正文委員長

本日 2 月以降のプログラムをお配りいたしましたので参考になさって下さい。宜しくお願い致します。

■■■ 講師卓話 ■■■

「入間市の学校教育」

入間市教育長 村野 志朗 様



日頃のご協力に心より感謝申し上げます。発達障害系の子どもたちは音がいっぺんに耳に入り落ちつけませんので、雑音を遮断し、先生のお話だけが聞ける器械を今年度は購入させて頂きました。落ち着かなかった子どもが落ち着いて勉強ができる様になり大変助かっております。

私が今一番に考えているのは、グローバル化と少子高齢化の時代に子どもたちにつけたい力は、心豊かでたくましく生き抜く力であります。

平成 19 年頃の入間市の学校は、非行問題行動の多発・不登校児童の増加と荒れた学校でありました。この現象は『発達障害の二次弊害』ではないかと私どもは考え、立ち上げたのが子ども未来室事業であります。この事業の主な内容は、発達障害の児童(脳に障害があると言われているが一

芸に秀でている)を早期に発見し、幼児期から連続して支援・指導していくことです。特に、保育園・幼稚園・小・中・高校の先生方のご協力をいただきました。

中央教育審議会とは、文部科学省に置かれた最も重要な審議会で、文部科学大臣の諮問に応じて教育、学術、文化に関する基本施策について調査審議し、文部科学大臣に建議することを任務としています。中教審の小中一貫教育特別部会では、現在、小中一貫教育に取り組む埼玉県教育委員会、広島県呉市、京都市、品川区とともに、入間市は平成 20 年度から推進している「子ども未来室事業」や東町小・中学校の一貫教育の成果を踏まえ、平成 26 年度からすべての中学校区で実施しております。とりわけ、保幼小の連携を始めた平成 20 年度以降の小学生（現在中学 1 年生）からは、非行問題は全国の発生率の 4 分の 1 に、不登校は小学校の在籍児童数 8,000 名に対して 0 名、中学校でも出現率 1.25%と大きな成果を上げることができました。この成果は、全国でもトップレベルであると自負しています。

現在、学校は子どもたちの夢や希望を実現する基礎を培う場となっています。さらに、子どもたちの自立の支援の質を高めるため、平成 25 年度から『日本一の教育都市 入間』という目標をかかげております。具体的には、学校力を一段と向上させ、教育の質を高めることに主眼を置いて、今後 5 年間取り組みたいと考えています。文部科学省の研究委託を受け、平成 26・27 年度市内小中学校全校で小中一貫の教育を実施します。研究の内容としては、1. 小中学校の教師の授業交流により、授業の質の向上を図り、学力の向上を目指す。2. 小学校児童と中学校生徒との交流を通して、中学校進学時の不安の軽減を図り、中学生の不登校 0 名を目指す。ということです。また、インクルーシブ教育(障害のある子もない子も共に学ぶことを追求しつつも、これまでの特別支援教育の充実を図ること)の観点から、ユニバーサルデザイン(発達障害を含めすべての子どもにとって分かりやすい授業)の視点を取り入れた授業について研究をしてまいりたいと思っています。

入間市の小中一貫教育のねらいは、『教職員の意識改革』を通して学力の向上を目指すものです。その意味では、小学校の先生が中学校に、中学校の先生が小学校に出向き、授業を通して小学校文化・中学校文化の良いところを学び、一人一人の教師の授業改善が図られ、子どもたちの学力の向上に結びつくことです。又、新年度の 4 月・5 月の中学校 1 年生の教室に元の担任等が入って週 8 時間程度授業することは、中学 1 年生の精神状態を安定させ、子どもたちに大変好評です。まだ本市の取組は始めたばかりですが、国の動向に注視しながら、さらなる推進を図ってまいりたいと思います。家庭、地域社会の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

<ニコニコBOX>

忽滑谷明 S A A

平岡達也君、山岸義弘君、加藤国夫君、粕谷康彦君、滝沢文夫君、友野政彦君、齋藤栄作君、繁田光君、木下登君、忽滑谷明君～村野様ようこそ入間 RCへ今日は卓話宜しく願い致します。関根靖郎君～早退します。

本日¥11,000 累計¥638,500

◆回覧、配布物

- ①2014～2015 年度例会プログラム(2 月以降)
- ②3/14 RI2570 地区第 3 グループ I M 出欠表
- ③ロータリー希望の風奨学金ご支援感謝
- ④埼玉県北明るい社会プログラム支援協力
(先週の加藤玄静バスタガバナー訪問に対して)
- ⑤2015～2016 年度版 RC 手帳申込書
- ⑥加藤会長より「論語」解説書
- ⑦他クラブ週報&例会変更のお知らせ
- ⑧入間 RC 週報 30 号

<出席報告>

田中快枝委員長

会員数	出席数	出席率	前々回修正率
39 名	26 名	66.7%	78.4%

事前欠席連絡 6 名

会報・雑誌委員会(石川・森田・荒井・関谷)